向陽新聞
高知市塩屋崎町1の2
土佐中・高校新聞部
編集人　白木　則子
発行人　森田　公
印刷　高知印刷

小委員会案まとまる
執行部の構造改革が中心
高校

中学・高校　相継ぎ規約改正の動き
生徒会の活発化を目ざし

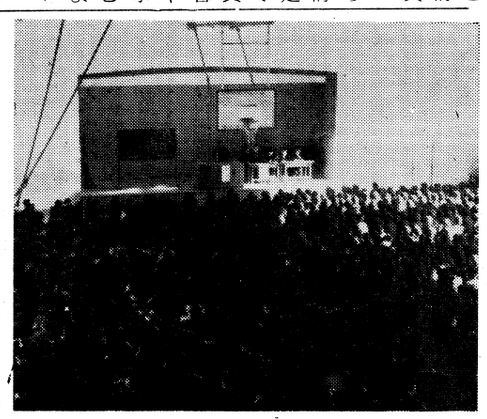
最近、中学、高校の生徒委員会において、『生徒会則（通称規約）』の改正問題が相次いで起った。

中学ではすでに七月三日の生徒総会において、中央委員会作成の改正案が一部修正の上、満場一致で承認された。しかし今度の改正は「クラス会の任務の明確化」などであくまで抜本的な域を脱していず、まだ今後検討の余地があるようだ。

一方高校では、数年来の生徒会活動の不活発化と執行部の一般生徒からの遊離にたまりかね、今年の一学期中頃から「規約改正により執行部構造の根本的改造を行なおう」とする動きが起りはじめた。そのため生徒委員会では六月初めに『規約改正問題小委員会』（小委員長二K川口清史君）を作り、同会に『規約改正問題』を検討してもった結果、七月末に執行部の「構成」と「選挙方法」と「任期」に大きな変革をほどこした『小委員会改正案』がまとまり、あとは生徒会の決定をまつのみで、二学期の開始と共に同問題もいよいよ重大過程に入ってきた。しかし規約改正を討議するため開かれた第三回と第五回の生徒委員会はいずれも定員不足により流会となり、同問題の解決は今後に持ち越された。

高校の「小委員会案」が問題としている第一の点は「執行部の構成」である。従来の執行部は委員長（一名）・副委員長（二名）・書記（二名）合わせて五名という全国でもまれなほどの小人数で構成されていたため、その活動も定期的な行事を行うにとどまっていたが改正案では委員長・副委員長の外に新たに執行委員という者を六名設けて執行部の人数を増やし、各人に特定の任務を与え仕事を分担して、行事以外の生徒とむすびつきの深い日常活動を行うようにしてある点が注目をひいている。

なお執行委員は会計・書記・広報・体育・文化・HR（ホームルーム）の各任務をそれぞれ一人ずつに分担することになっているが、この中でもユニークなのは、生徒会活動の重要項目といわれてきながらこれまであまり重視されなかった広報・体育・文化・HRの各委員の設置である。生徒委員会にも引っぱり出されていた執行部の書記は、今後は執行部事務の処理を専門に行う事となり議事録作成などの議会事務は、議長団に別個に書記を設けて処理することとしている。



第二の問題点となる『執行部の選挙方法』については従来の生徒委員の互選で選ばれるのとは異なり委員長・副委員長は全校生徒の直接選挙で選ぶことにしているのが一番かわっている点である。これについては「執行部と一般生徒との結びつきの薄さを解消し、全校生徒の生徒会活動に対する関心を呼び起すため」と小委員会ではいっている。ところで新設の執行委員は、委員長が全校生徒の中から個別に頼み、委員会が承認すると正式に執行委員となることになっているが、これには賛否両論があり今後もかなり問題になりそうである。

第三の問題点である「執行部の任期」の点では生徒委員は今までどうり毎学期ごとに変わる三期制だが、執行部はこれまでの三期制と異なり二期制で、前期は六月十五日から一月十四日まで、後期は一月十五日から六月十四日まで、という非常に独創的な新形式を打ち出している。二期制にしたのは「委員長・副委員長の直接選挙から起こる選挙事務の煩雑さのため三期制では腰を落ち着けて活動出来ないし、一期制ではあまりに長すぎて途中で中だるみする心配があるから。」という理由からだそうである。一方変則的な期日を採用した理由を小委員長の川口君は「四月から九月、十月から三月とすると、十月以降は高二がほとんど執行部に参加しなくなる可能性が濃い。しかしそれではまだ「運動会」や「文化祭」などの重要行事が残っていて、高一だけでは心配だから、せめて二学期中は高二にもやってもらいたい。そして高一は高二になれば生徒会の主力として活動するから、学年の変わり目に執行部が変わらず、そのまま持ち上がっても良いという考えから一月と六月に執行部が変わる事にした。」と述べている。

総会で「規約」改正さる
委員の任期も二期制化

七月二日の中学校生徒総会において、中央委員会が作成した「中学校生徒会々則改正案」が生徒議会から提出され、一部修正ののち賛成多数で承認された。

今回のおもな改正点は、議員の任期が執行部と同じ四月～九月、十月～三月の二期制になった点、旧規約において表現があいまいでその存在価値もうすかったクラス会の立場と任務を明らかにした点新たに執行部に二名の書記を加えた点、役員のリコール（罷免）方法を明らかにした点などがあげられる。

今回の改正に対しては、かねてから旧規約では充分ではないという声があったので、歓迎する向きもあるが、まだ内容的に不充分だという声も一部にあるようだ。

中・高生徒会　相次いで新役員を決定
校長　一般委員推薦の川口君（二K）
高委員　"たらい回し"にストップ

九月三日開かれた高校生徒委員会で、二学期の執行部役員及び議長団が決定した。

今回の選挙は生徒会不活発化に対処するための「規約改正」が問題化し、ようやく一般生徒の関心が高まる傾向の中で行なわれたが、新たに委員長には川口清史君（二K）副委員長には楠本和弘君（二H）と門田理博君（一K）書記には刈谷加代さん（二S）安部和さん（一H）が、また議長団では議長に宇賀四郎君（二T）副議長に有光定次郎君（一T）が当選し、二学期の役員を務めることになった。

これまで一部からは"たらい回し"執行部"とまで酷評されていた執行部であるが、今回は書記の二名以外は、いずれも一般生徒委員の推薦によるもので、前執行部の推薦候補を破り、従来の悪循環をストップさせた点で特筆される。

また新委員長の川口君は「規約改正問題小委員会」の委員長でもあり「規約改正問題」を今後どういうふうに扱うかが注目されている。

一方、中学生徒会も、第二期の執行部がこの十月から活動を開始した。

この執行部は、前執行部の「事務の引き継ぎを確実にしたい」という要望で開かれた去る七月七日の生徒総会で、全校生徒の投票により選出されたものである。

新執行部の顔ぶれは会長山本幸（三A）副会長山崎都太郎君（三A）中沢信一君（二C）書記井上則子さん（三C）多田博子さん（三B）また中央委員は森崎初男君（三B）森下孝仁君（三E）島村藤村君（二D）佐竹清君（二B）吉本博文君（二C）である。

順調な活動を開始
新会長山本君（三A）のもとに
—中学—

委員長山本君　副委員長山崎君　同中沢君

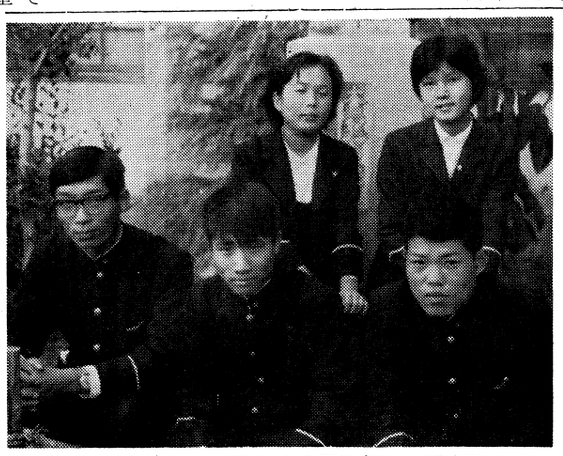
山本新会長談

決った時はえらい仕事を引き受けたものだと思った。今までは生徒会に対し傍観的な態度をとってきたが、執行部に入ったからには、そうはいかないので、悔いのないように職務を遂行してゆきたい。

具体的な方策はまだまだだが当面する行事だけは確実にやってゆき、規約も悪い点があればどんどん改正してゆきたい。

川口新委員長談

就任する時までは、不活発きわまりない生徒会だと批判してきたが、今後は自分の言葉に負けぬように、当面している行事は当然のこと、規約改正は是非やりたい。これによって、不活発の問題、その他執行部がかかえている問題は全てが解決されると信じている。



新執行部の面々。前列左から門田（副）、川口（正）、楠本（副）、後列同じく安部（書）、刈谷（書）の諸氏。

主張
食堂売店"厚生施設"へ脱皮せよ
利益本位を捨てて

最近、またもや生徒間で「売店・食堂問題」がとりあげられ、生徒委員会においてもその"在り方"などをめぐり、活発に討議されるようになってきた。しかしながら九月八日、本紙のおこなった「売店・食堂問題アンケート」の結果を見ても明らかなように、この問題に対する学校当局の態度には、われわれ生徒として納得のゆかないところが多分に見つけられるのである。

その中でも最も顕著な点は「なぜ学校当局は売店・食堂の利用者の大部分を占める生徒の意見に耳を借そうとしないのか」という点である。

生徒委員会もまた「校長との懇談会」の席上でも、再三再四「売店・食堂の値段はあまりにも非良心的すぎる。中には市価よりも高いものも見つけられる。こんなことでは、売店・食堂は何のためにあるのかわからない」「金網の設置は"教育の場"には不必要であり、われわれとしても一種の侮辱のように思えて不愉快だから是非はずして欲しい」「生徒の便宜を計る意味でも、不可能ではない西洋紙などの分け売りをして欲しい」「クラブ活動で残っている者のためにも、閉店時間を五時にして欲しい」との要請をしてきたが、そのたびごとに一蹴され、現在売店・食堂には何ら改良された点は認められない。

校長は九月十日、生徒委員会の席上、売店問題について「パンはこれ以上安くはならない。売店は儲ける必要はないが損をするようにはしない」と述べた後、高三生徒委員の「パンの販売は儲けるようにやるのではないか」との質問に答えて「君たちがそんな風に考えるんなら儲ける方針で行きたい」と言明した。「売店は儲ける必要はない」と言いながらわずかその一分後には「儲ける方針で行きたい」と言っているのである。果してこのように確立した運営方針を持たぬあやふやな態度で、学校内の売店・食堂は営まれていいのであろうか。それらは学校の一存で右にも左にも動かすことのできる性質のものだろうか。ここにわれわれは大きな疑問を感じるのである。

さきの校長の発言でもう一つ気にかかることがある。それは「儲ける必要はない」と言いながら、その実は「年間百余万円を儲けている」ということである。現在、従業員の給与はすべて学校の一般会計から捻出されており、売店・食堂の収益は、すべて純益となっているのである。とすれば原価より高く売ればそれはすべて儲けとなる。しかしながら現在原価もしくはそれ以下で売られている品があるだろうか。以上を見ても、校長発言が矛盾を含んでいることは明らかである。ところで、一番根本になり、またそれだけ重要である"学校内の売店・食堂の理想的な姿"すなわちその"本質"とは何であろうか。

師弟という大きな絆（きづな）で結ばれ、世間における商店と消費者との関係とは本質的に異なる学校という特殊事情下の売店・食堂。果してそれらは営利的に運営されていいものであろうか、われわれは何のために学校へ来るのか。売店・食堂に莫大な収益を得さしめるためであろうか。生徒を教授する立場にある学校としても、そのような収益を何も知らないわれわれから得る権利がどこにあるのか。われわれの信頼を裏切ってまで営利に走る価値がどこに存在するのか。また生徒に対し、学校当局は「売店・食堂の収益は遠征費や設備費など生徒みんなの上に還元しているのだから、収益をあげるのは不当ではない」とも言ってきた。しかしこの理論は明らかに間違っている。"遠征費"においても、遠征というものは少くともわれわれみんなの上にある自治活動の一環に位し、遠征に行く者はみな土佐校の名を背負い、われわれの代表として行くものである。そしてその費用の一部を賄うのがいわゆる"遠征費"である。だから従来の学校支給という形は全く不自然であり、"設備費"とともにわれわれみんなが等分に負担し、学校は補助というのが一番望ましい形態なのである。そしてここで見逃してならないのは、売店・食堂の利用度は生徒一人一人によって非常に異なるということである。例えば昼食がパンとミルク、あるいはうどんやそばの人と弁当持参の人とでは永い間に差の生じることは否定できない。ところがこれらの収益を"遠征費"や"設備費"などへ回すとなると、一部の人がそれらを肩がわりするというまことに不合理なことになるのだ。だから収益をそれらに当てていた売店・食堂は"遠征費"や"設備費"が、生徒等分負担の状態になった時には、儲ける必要はなくなるのである。またそうしなければいけないのだ。そして生徒の便宜のみを計る厚生施設として存在するなら、そこには何の疑念も起こらない、われわれの喜こんで利用でき、学校当局も教育者の立場から拍手を送る"理想の姿"が実現し、ひいてはそれが学園の理想化への足がかりとなるのである。

この「売店・食堂問題」をわれわれも学校当局もその本質から考えなおし、早くお互いに信頼し合える明かるい学園にしようではないか。

政岡先生——"居合抜き"日本一に

本校漢文の先生で、長谷川英信流居合抜き八段だった政岡先生は去る五月、高知県剣道連盟での審議の結果、伯耆（ほうき）流の吉沢氏とともに、現在最高位の九段に昇段された。

なお、その後先生は七月二十四日に全日本東西対抗剣道大会のオブザーバーとして沖縄へ行かれたが、その際「ひめゆりの塔」と「健児の塔」で慰霊の居合抜きを演じられ、そのありさまが沖縄タイムスの誌上にのるというひとこまもあった。

三留学生アメリカへ
—神崎さんは元気に帰国—

この八月、本校は三人のアメリカ留学生を送り出した。アメリカン・フィールド・サービス（略してAFS）の奨学生として昨秋からすでに決定していた石丸さゆりさん（二H）と葛目玲子さん（二K）それに六月、突然留学の決った中村繁博君（二K）の三人である。

中村君は、六月下旬高知ロータリー・クラブを通じて一貫校の高校生を一人、一年間アメリカに招待したい。」とのカリフォルニア州に住むロバート・チャターズさんの申し出にかなって渡米したもので、向こうではカリフォルニアのリンズィー市の高校へ通学することになっている。

なお、中村君で本校のアメリカ留学生は六人になった。

また昨年八月、AFS奨学生として渡米し、一年間カリフォルニア州でアメリカ生活をおくった神崎紀久子さん（三K）は、七月二十一日多くの収穫を得て帰国。現在元気に登校している。

ブラバンニ位に入賞

九月十六日、中央公民館で開かれた全四国吹奏楽連盟、朝日新聞社主催の第六回全西国吹奏楽コンクールに、高校の部、B部門で本校は堂々第二位に入賞した。

この日、参加した中学、高校、職場などの吹奏楽部十八団体約六百人の市中行進の後、正午、久保出美四国吹奏楽連盟理事長のあいさつに続いてコンクールは始った。

本校のブラスバンド部は、ひときわ貧弱な楽器をあやつりながらも今年の課題曲「鬨の声」を見事に演奏し、盛況の聴衆のヤンヤのかっさいを受けた。

ひとこと

○…第十五回県高校体育大会も十八日の野球を最後に幕を閉じ三日間の熱戦に終止符を打ちました。

○…ところで十六日の開会式の入場行進は毎年のことながら、各学校の校風がはっきりわかって、考えさせられるものがありました。

○…頭をきめ、胸を張り、素晴しく三度練習しただけのインスタント行進にしちゃ、足並も乱れてはいなかったし、まあまあだったようです。だけど何かそこに天下の土佐高にしてはもの足りなさがありはしなかったでしょうか。どこといって悪い点はありませんでした。しかしそう言われれば、新興某私立校ほどの整然さもなかったし、新設某県立高校ほどの若々しさもありませんでした。

○…足並をそろえるぐらいのことは二、三度練習すればすぐできるようになるでしょう。しかし胸を張って若者らしく歩くことは一望一夕ではなかなかできません。いくら気をつけていても、いつのまにか元通りになってしまいます。歩く姿というものは日頃の生活態度、考え方から自然にできるものなのでしょう。

○…前に、行進には各学校の校風があらわれていると書きましたが、さっきは立派だと思ってあげた二高校が両校とも新興の意気に燃えている学校だということは決して偶然ではないでしょう。彼らは折こふれ、自分たちの学校の伝統は自分たちで作ってゆくんだと無意識の内にも考えているに違いありません。それが県体の入場行進にあらわれたのではないでしょうか。

○…本校は生徒の一県体出場選手に限らず一前二校に比べての気力の違いがそのまま入場行進となったのでしょう。

（K・K）

県体入場行進から

校内短信

○河原崎弘先生（中二・高一の英語担当）九月三十一日付で郷里静岡県立島田高校にご転任。後任講師には鍋島綾先生（本校三十三回生、高知大学卒業、現小津高校講師）

○事務員の高橋節子さん、ご結婚のため同じく九月三十一日付で退職。かわって中越美代子さんが事務にあたっている。

部員求む!!

○特に中三・高一の人

○希望者は部室までお越し下さい。

○連絡あればこちらからまいります。

うんがき

▼秋も、もう半ば、筆山の緑は一段と深まってもはや夏の明るい緑は見る事ができません。空も澄んできて、秋の色になりました。スポーツの秋。灯下書に親しむの秋。そんな秋が夏の強烈な印象からぬけだして、やっと我々のものとなり、落着いてきました。秋—夏のように激しくはないけれど除々に影響して、何もかも変えてしまう秋。▼二学期になって、高体連がすんだと思ったらもう高二の修学旅行。そして十一月には運動会と文化祭があります。それらは毎年やる事で、いそがしさや難しさはわかりきっているのに、迫ってしまってから今さらながら慌てて「こんなにも大変な学期だったか」とあらためて認識するのです。この学期は我々の気の持ちようで、どうにでも変わると言われてきました。もし消極的にこの期間を過したらどうなるでしょう。十一月などは授業が行事に追われている有様ですから、確実に安易に時を過してしまって、後で行事におし流された事に気づくでしょう。いろいろな意味で我々学生にとって最も大事な時期といわれるこの期間に格別何もせず、行事のあい間にうわついた気持で遊んでしまうでしょう。高三は勉強が中だるみになり、高二は行事に明け暮れ、高一及び中学は遊んでしまうおそれがあります。▼ゲーテが「どんなつまらない雑草でも、懐しい日記の一片となり得る」と言っているように、遊ぶ事が全て悪いとは言いません。けれども我々は遊ぶ前にしなければならないものがあります。何よりも先ず自分の進歩をはかる努力をするのです。多くの試練に対するたびに磨かれてゆく人間としてのあり方です。人間としての進歩なくして他の発展が望めましょうか。内面的な進歩がなくては外面的な発展はありません。自分が良くなろうと努力しなければ良き友は得られないのです。▼積極的になりましょう。二学期を我々の手で新しく作り出そうではありませんか。今までに無かったような学期を自分の中に作り出し、外に示すのです。納得のゆく生活をして、満足のゆく運動会、文化祭にするのです。この期間に自分を試そうではありませんか。自分に大きな必然を課して自分を高め、後で思い出して満足のゆく二学期にしようではありませんか。

（M・S）

高橋写真館
大丸東 ② 6758

ヒフ病薬と新薬は
はりまや薬局
はりまや橋　土電会館南隣り
TEL ②2665

学生の書店・学習参考書は是非
金高堂書店
TEL ②8285・8286
土電会館書籍部
TEL (代)②0111

メガネ専業
イリキ眼鏡店
高知ハリマヤ町 電②0998番

土佐名物、東京への御土産は
立石蒲鉾店
大丸東側　電②6279

辞書・参考書
ザッシ
螢雪時代
高校時代
中学時代
予約承ります
明文堂 電話 ②六九五

土佐高生の店
"勉学の秋"
卒業記念に
万年筆は
白亞堂
帶屋町東宝劇場西三軒
TEL②2473

制服
男女制服
男女コート
男子既制服
高知学服（入交）
中の橋電停前
TEL ②2744

サソゴはぜいたく品ではありません
……りっぱな工芸品です
土佐の名産サソゴにカツオと
全国に知られています
土佐名産サンゴと
装身具は
池田珊瑚店
高知市帶屋町一丁目
TEL ②0358

激化する売店問題

運営・価格の改善を

委員会、学校に要望

六月二十一日の生徒委員会において、高三生徒委員から「現在の売店・食堂は本来の目的である生徒の便宜を計るということから離れていはしないだろうか」との発言があった。そこで委員会で検討した結果、「たしかに現在の売店は生徒の便宜を計っていない」という結論に達し、六月二十九日に開かれた生徒委員会に、購売部の渡辺先生に出席ねがって「売店の品物の値段を市価（現在市価よりも高いものがある）ぐらい、あるいはそれよりも安くしてもらいたい」「サービスをよくしてもらいたい」「一円単位の分け売りをしてもらいたい」「売店の収入は今どうなっているか。噂によると、講堂の椅子を買うそうだが、それよりも蛍光灯をその利益でつけてほしい」「浜口先生にきくと、現在食堂でうっているうどん・そばのカロリーは少いそうだが、もっとカロリーを増してほしい」「金網で商品をかこっているが、あれは教育者としてとるべき措置ではない」との希望、意見が出された。これに対して、渡辺先生は「商品の値段は安く出来ない。サービス、分け売りの問題は、手がたりないので無理だ。売店の収入はすべて生徒のために使っている。金網は絶対のけない」と答えられたが、生徒会はこれを不満とし、売店に関する希望を次のようにまとめ、生徒委員会として成文化し校長に提出、考慮してもらうよう要望した。

一、売店で働く人はあくまでも生徒のための売店であるという心構えでいてほしい。
一、西洋紙、原稿用紙などは十円以下で分け売りしてくれないが一円単位で売ってほしい。
一、経済的な面のみではなく運営方法も非民主的だ。
一、金網をはりめぐらすのは教育の場としておかしい。
一、うどん・そばの質を良くしてほしい。

これに対し学校側は「売店は、儲ける必要はないが、収入を減らす考えもない。また計算が複雑になるため分け売りは絶対しない。金網は盗難がなくなるまでそのままにする」といっている。

このように両者に歩み寄りの見られないのは、両者の売店に対する根本的な考えのちがいからと見られている。学校側としては、あくまでも、学校経営の一環と考えており、また遠征費、施設費、奨学資金を売店・食堂の利益から出しているため、収入を減らす考えは少しもない。むしろ売店の利益を生徒のために使っているので売店は本来の生徒の勉学、学校生活を補助するという役目をはたしていると考えている。これに対し生徒会は、売店は生徒の便宜を計るのが第一だ。遠征費というものは、生徒自身が出すのが本当で、学校は補助の形としてだけ出すのが本当だ。また施設費も同様で、一部の生徒からの利益を使うべきではないと考えているからである。

この売店・食堂に関する問題は過去びたび生徒会と校長との懇談会でとりあげられ、論議されてきており、いまにはっきりしない所が残っている。最近では食堂のうどん・そばの質や味のまずさが問題にされ、また上靴が指定された時には売店で発売し、その値段が高いと生徒から苦情が出たし、売店が前の社会科室に移転した時には、渡辺先生の案により売店の商品を金網でしきってしまい問題になった。

現在売店は朝八時から午後四時まで開店し（この点に関しても、売店に対する不満が委員会内からおこり、今問題になっている。

委員会は、「商品価格」「サービス」などに関し、不満点を学校に改善してくれるよう要望した。これに対し学校から回答があったが特に価格の点に大きな意見の違いがあり、委員会は納得せず、今後ともこの問題を強く押し進めるようである。ともかく売店問題は今に始まったものでなく、前々から一般生徒内に不満が多くあるだけに、この問題は今後とも大きくなるものとみられている。

（売店前に長蛇の列）

72％経営方針に不満

本紙売店問題にアンケート

九月八日、新聞部では最近生徒委員会でも大きくとり上げられている「売店・食堂問題」に対する一般生徒の意向を知るため、中・高各学年一ホーム計六ホームを対象にアンケートをとった。それによると「現在の売店は営利本位的なところが多分にある。生徒の便宜のみをはかる厚生施設にして欲しい」「閉店時間の延長・原稿用紙の分け売りなど改善して欲しい」との意見が圧倒的に多いことが判明した。

◇調査の結果◇
—以下単位％—

一、売店・食堂の閉店時間について（現行四時）
イ、下校時間の五時　六〇
ロ、現状のまゝ　三八
ハ、その他　二
クラブ活動などで遅くまで残る者が多い関係上、下校時間五時までが圧倒的、その他四時半という意見もあった。

二、売り値について
イ、一般に高すぎる　六三
ロ、現状でよい　三七
高い物の例としては、パン・ジュース、ついで上靴（これは市価と比べて約七十円の差がある）などが出ていた。

三、原稿用紙などの〝分け売り〟について（現在行ってない）
イ、分け売りをしてほしい　八二
ロ、現状でよい　一八
分け売りをしてほしいの意見が断然多いが、どうしても一円売りが不可能ならせめて五円でも売ってほしいとの意向もあった。

四、現在設置されているジュース・スタンドについて
イ、設置する方がよい　八四
ロ、設置しないがよい　一六
設置賛成の意見が大部分を占めているが、休み時間毎に利用する下級生は浪費癖がつきはしないかとの心配もある。

五、金網について
イ、はずしてほしい　四八
ロ、現状でよい　五一
両方の意見の差はあまりないが金網のためにおこる混乱や不便さ解消のためには窓口をふやすなどの対策をたてゝほしいというのが一致した考え。

六、現在の売店・食堂の運営状態について
イ、営利本位なところが多分にみられる　七二
ロ、生徒の便宜をはかるという本来の目的にかなっている　二八
大多数の者が今の売店の経営方針に不満を持っている事が示されている。

七、次の意見のどちらに賛成ですか。
イ、遠征費は生徒の上にあるものだから生徒各自から徴収し売店・食堂は市価よりも安く売り、生徒の便宜のみをはかればよい　六三
ロ、売店・食堂の儲けるのは当り前、遠征費は売店の利益から出してもらった方がよい　三七

遠征費は生徒から出した方が良いというのが一般傾向であり、また売店・食堂を厚生施設化する声の多いこともわかる。

◇調査方法◇
▽対象…中・高各学年一ホーム、計六ホーム、人員三百九十三人
▽不提出…百二十六人
▽有効回答…三百六十七人

図書館に毎月本を贈る

先輩の江淵氏

本校第二十四回卒業生の江淵忠広氏は、今年三月から毎月本校図書館へ本を寄贈されており、図書館関係から非常に感謝されている。江淵氏は「卒業生として何か母校のために役に立ちたいと思い西野先生とも相談した結果『新

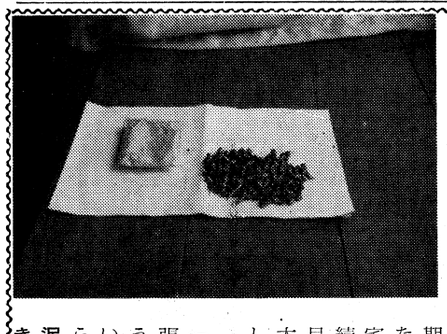
〝これぞ努力の足跡〟

一八五本の豆鉛筆は物語る

先ごろ、本校拡張部の山岸先生の所に小さな包みが届けられた。開けてみると、でるはでるは何と一八五本の長さ二センチほどの豆鉛筆が。一瞬先生は目をまるくされたそうである。

ところでこれは本校三十五回生の熊沢教慎さんの一年間の努力を物語るものである。熊沢さんは本校卒業のとし下関水産講習所に合格したが期待と相違していたためそこをやめ、自宅で一年間勉強を続けた結果、本年三月、めでたく北海道大学水産学部に合格した。

なお山岸先生は「先輩はこんなに頑張っているのだということを知ってもらいたい」と語っていられた。（写真は熊沢さんから送られてきた豆鉛筆）



文化部活発化のきざし

発表会、弁論大会開かれる

ここ何年ものあいだ、活動が不活発だとの批判がなされていた文化部において、前学期、これまでとはちがった特色ある活動が行なわれ、文化部は新しい活動の時期をむかえようとしている。

まず六月二十七日には中三年以上参加の「校内弁論大会」が、高校生徒委員会および新聞部の共催によって行なわれた。熱心な弁論の結果「これからの土佐高生に望む」という題で演壇に立った高三Kホームの横山征二君が、そのたくみな話術と説得力、また話の内容とによって第一位の栄冠を射とめ、校長杯および賞品を獲得した。第二位は、高二Tホーム川添明君の「学生生活について」第三位は、高二Kホーム岩辺輝一君の「自転と公転」で、それぞれに賞状および賞品が贈られた。

この弁論大会の目的は「生徒全員がひとつの問題について考え合おう」というもので、それまでこのような経験のなかった土佐中・高生でもあり、この催しが新聞部というひとつの文化部で発案され全校的な大会まで大きくなったのは意義深いとの声が多い。

しかし一方、最初参加者は自発的な申し込みの者のみときめられていたものが、意外に申し込みの数が少なく、大会の開催が危ぶまれたので、各学年より二名の代表を出すようにと変えられた点に問題も残っている。

また七月十七日には高校生徒委員会主催の「第一回文化部発表会」が本校講堂で行なわれた。出場は演劇・舞踊・音楽・吹奏の四つの部で、それぞれ日ごろの練習の成果を発表し、大きな拍手をあびていた。文化部の中でも、舞台を発表の場とするこれらの部はこれまで発表の機会は、年一回の文化祭の時だけであり、どうしても部としての活動が不活発化していく傾向があった。そこで演劇部の呼びかけにより、発表会を開こうという気運が盛り上がり、生徒委員会を動かして実現したものである。この発表会は、効果と照明も放送部と映画部が受けもつとい う、各文化部の協力のもとに行なわれたもので、新しい文化部の進みかたとして注目されている。

「弁論大会」「文化部発表会」というふたつの大きな行事が、いずれも各部間の自発的な盛り上がりから、生徒委員会を動かし、実現されたことは、本校では目新しいことであり、単に文化部活動の活発化というだけでなく、最近マンネリ化の傾向のある生徒会活動に新風を吹き込むことにもなるので、このような行事が、今後も引きつづき行われるようにとの期待がかけられている。

県展に四名入選

十月二十日よりひらかれている第十六回県展に、本校より次の四名の入選者が出た。

書道の部　一S　築地政彦
美術の部　二S　大岩稔幸
工芸の部　二S　都築貴彦
二THS　北村文典

都築君と北村君は昨年につづいて二度目の入選。

なお、この県展には工芸で特選になった柳原睦夫さんをはじめ先輩からも多数の入選者が出ていた。

難航する螢光灯問題

黒板は螢光灯が必要

——物理部各教室の照度を測定

前から生徒の間で要望のあった「蛍光灯設置問題」はその後生徒委員会が中心になり、学校に対してたびたび要求が行われているにもかかわらず、学校側は「これ以上取りつけるとすれば天井裏の配線をもとからやり直さなければならないので、大工事になり経費もかさむことになる。そんな大きな犠牲を払ってまでも蛍光灯を取りつける必要はない」としてこの要求を拒絶しつづけているため、現在まだ何ら進展していない状態である。

ところで物理部は雨の降っていた七月六日、中・高各教室の前・後の各照度を測定した。その結果によると、好ましい明るさが百～二百ルクスである黒板は各教室とも規定度に足らず、最も明るかったところで八〇ルクス、また五〇ルクス以下が十八クラスもあることが判明した。

一方、土佐高の視力異常者を他校の場合と比較して見ると、全国平均約三〇％に対し土佐高は、およそその二倍である六十二％という数字になり、他より圧倒的に多いことがわかるが、これは教室の暗いことも一つの原因でないだろうかという意見も、一部にあるようだ。

また現在食堂には蛍光灯を六灯もつけていながら教室にはないという状態であるが、これに対して校長は「必要ならば、食堂の蛍光灯を教室につけかえてもいと思っている」と答えていることは、今まで平行線をたどっていた生徒と学校の意見が接近してきたものとして注目されている。

高一Yさん談

食堂には明るい蛍光灯を六灯もつけているのにもかかわらず雨の日には暗くて黒板の字が読めない教室に蛍光灯がないのはおかしい。また体育館に椅子を入れるとのことだが、なぜその前に教室に蛍光灯をつけてくれないのか。

物理部長談

今の状態では雨の日なんかにはどの教室も暗すぎる。比較的明るい所で一灯、暗い所で二～三灯つければ十分だろう。できればつけてもらいたい。

各教室黒板付近の照度状況

（　）内は螢光灯をつけた場合（物理部調べ）

	中	A	B	C	D	E
照度（ルクス）	1	20	20 (110)	30 (80)	50 (130)	40
	2	30 (160)	30 (110)	40 (115)	30 (110)	30
	3	60	90	40 (180)	50	50
	高	T	H	O	K	S
照度（ルクス）	1	60	55 (130)	45 (170)	50	70
	2	50	60	50	60	80
	3	60	60	70	60	40

各校視力異常者の割合

（37年度本校新聞部の調査より）

	土佐女子	追手	小津	土佐	高知県平均	全国平均
視力異常者（％）	27％	28.4％	28.5％	62％	13.8％	30.5％

ちょっと失礼

河原崎弘先生

もうそろそろ鏡川もカッパたちの天国になろうというある日曜日。我々記者は塩屋崎寮の河原崎弘先生を訪ねた。「さあどうぞ」いつもながらの人の良い口調でにこにこと迎えられた我々、独り者としては割り合いに良く整頓されている狭い部屋に感心しながら、さっそく先生のご素性をおうかがいした。

生まれは遠州森の石松で名高い森町の東、御前崎の近くである先生、高校時代を茶の香も高い当地の池新田高校ですごし、みごと神戸大学を卒業、昭和三十五年本校に赴任された。中学校時代には若人のスポーツの象徴であるベースボール、高校時代には弁論部などで活躍していたというなかなかのファイトの持ち主でもある。「ぼくの通った高校は、農業科と普通科とに分れていてね。ぼくは普通科の方で良く運動場なおしとか田植えなど勤労奉仕もやったね。ホームの中はなごやかで皆協力的で文集製作など活発だった。まあのんびりと過したよ。大学に入ってからはキャンプや旅行などが印象に残っている」それに本校の生徒と先生の母校とを比べて「本校の生徒には自主性が少ない。なるべく人に頼らないようにやってほしいね」と語られ教育者としても真剣に考えていられる先生である。ところでソフト部の顧問でもある先生、部活動の第一の重点は練習を多くやることだそうで、県外遠征ができる程度にしたいとか。中学校の女子のチームも作ってやりたいなど、熱心なコーチぶりを聞かされた。

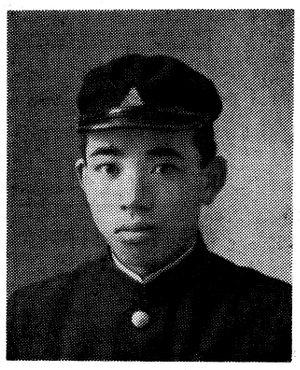
「趣味は？」という記者の質問に「熱中するようなのはないけど旅行することが好きだね。それから…、高知に来るまでは碁をやっていたけどものにならんよ。中学のころは切手とか古銭集め、またマッチ箱集めもやったよ」と答えられ、先生の多趣味なのには驚かされたが、何度思い出してもその中に水泳はなかったようである。（これは天下公認で許す必要がなかったのかな…）

「旅行で印象に残っているのは一人で（強調された）神戸—山陽—山陰と回った時のことだね。やはり山陰は空や海など高知や静岡などより暗い感じだね。こちらに来てからはバスで松山—宇和島—足摺と回ったけれど足摺では特に南国的な印象を受けたね」話はいつの間にか高知に来ていたので高知と静岡と比較してどう思うかたずねると「高知は梅雨がひどい」とのことまた今でもわからない言葉があるそうである。「静岡と比べて総体に言葉使いなんかが乱暴だね」と標準語で言われ、我々一同頭の上がらぬ思いで恐縮してしまった。

次の質問を出しかねて一同モジモジしていると先生の方から「ニックネームだろう。それは今の高三生たちにつけられてね僕の思うには名前と顔と（先生のお顔をマジマジ見つめる記者ろは「エノケン」教生のころは「カバ」なんて呼ばれたね」

いよいよきょうの訪問の最後をかざるべき質問、記者一同最後の勇気を奮い起して「先生あのう…ご結婚の方はいつごろ」「いやなんといっても先輩の方がゾクゾクといるもんで、今のところ何ら形跡は認められないってとこだね。広告でも出してみるか。当分は独身会（会長平林先生を筆頭に本校八名の独身の先生により構成されている）のメンバーとしてやっていくつもりだ。三十才ごろまでは勉強したいね。理想の女性？一度好きとなったら絶対にもらいたいな」残念ながら肩スカシをくわされた我々、勉強したいという先生のごりっぱな決意に感激西の窓から日光がさしこむころ明るくて庶民的な殿を後にした。（六月十七日訪問の巻）

なお先生は家庭の事情で十月より故郷の静岡県の静岡県立島田高校に転任された。本校では二年半教えられたわけだが、ソフト部々員をはじめ、一般生徒の間でも残念がられている。


（写真は高校時代の河原崎先生）

アメリカ見たまま

神崎紀久子

合理化された生活

アメリカの家庭にはいって彼らの生活を見ると、日本のそれと少し異っている。収入の充分ある家庭はさておいて、中位の家庭生活を考えてみよう。

日本では食費を切りつめてでも衣服費・住居費に持って行こうとする傾向がないだろうか。アメリカ人は生活の基礎である食費を第一に考え、次に余暇の利用にお金をまわす。その次に衣服費・住居費が来る。家庭の主婦も朝から晩まで家事におわれているということはない。自分の余暇を見つけて読書したり、トランプの会をもったりする。婦人の福祉クラブの活動が活発なのはそのためでもある。土・日の週末は家族そろってキャンプに行ったりする。その余暇を見つけるためにおいおい生活が合理的になっていくのであろうか。洗濯は一週間に一回、月曜にだけする家庭が多い。時間の励行も徹している。私のアメリカの母がよく言った「きょうの夕飯は五時五十三分からよ」と。そしてその時間にかっちり夕飯は始められた。

食品も毎日八百屋、魚屋にと足を運ぶのでなく、一週間分を買いためておく。又、食事の準備時間節約のために半製品を多く使う。食事の時使う皿の数も二つか三つで、その後かたづけなども考え合わせそれは便利である。一品を一皿につけて目で食べる日本の料理にもまた格別の良さがあるが。日本には地方によってあるいは個々の家々によって食事において独特の味がある。しかし、アメリカにはそれがない。味が単一化されてしまっている。半製品利用は合理的ではあるが、なにかさびしい気がする。手作りの心のこもったその人特有の味のある料理が食べられるのはやはり日本である。それがいいと思うのは、伝統につちかわれた、きめの細やかさを尊ぶ東洋人の感覚からであるからかもしれない。

アメリカの一家庭の一員として生活して見てアメリカ人の生活の基盤は〝個々の人間性の尊重〟と〝合理的生活〟の上に立っているように思われた。

ケネディ大統領と握手

多くを学んだ一カ年の学生生活は六月十四日の卒業式をもって終了した。式は午後六時半より、夕ばえの運動場で二千五百人の参列のもとで行われた。卒業生はすべてブルーのキャップとガウン（学校より各自一ドル五十セントで借りる）を着用。私の卒業の〝サヨナラ・スピーチ〟は留学生活の中で最も思い出深いものの一つである。

六月十九日より、アメリカ横断のバス旅行に出、世界各国から集まった二千余人のAFS留学生がワシントンD.C.に集合した。各国の旗が立ち並ぶ中で日本の国旗を見つけた時の嬉しさはいまも忘れられない。百余名の日本人AFS生は日の丸の旗の下に集まり、誰れともなしに〝君が代〟を歌い出した。私たちの歌う静かな〝君が代〟の歌に、外国学生はじっと聞きいっていた。あの時ほど、国のありがたさを強く感じたことはなかった。

翌日、ホワイト・ハウスの前の庭でケネディ大統領の演説を聞くことができた。その後幸運にも私は大統領と握手する機会にめぐまれた。そのことをアメリカ人に話すとあなたのケネディ大統領と握手した手で握手してくれという。日本に帰って「この手で握手してあげましょう」と言っても何のことかわからないらしい。みんなポカンとしている。このことからも、ケネディ大統領に対するアメリカ人の尊敬感、信頼感というものがうかがえる。大統領に対する関心は日本で考えられている以上に大きなものである。

私たちのアメリカでの日々の生活が日米両国間の親善の一助となっていることを願うものである。

趣味の陶器を沢山揃えております
依光陶美堂
高知市オビヤ町　TEL②2321

校友の店
クツの高雅堂
高知市帯屋町一丁目　TEL②2960

ナショナル
暖房器は
京町
穂積電業社
TEL②6646

これはうまいぞおどろいた
狸うどん
高知市新京橋27　TEL②0809・1695
ねぼけ

信用あるお店で安心したお買物を
通学用・旅行用・かばん・袋物
マエダ
かばん店
高知市帯屋町18　②8600・8601

D.Pの機械化によりあなたのお写真がより良くより安く出来るようになりました
サービスサイズ＝10円（77mm×112mm）を始めました
キタムラカメラ
堺町19　TEL②3154～6

高知一の定評　うまい鮨は
高知大丸西口前
菊寿し
電話㊀三三六六
お二階も一般席ですので
お気軽に御利用下さい